

令和6年度 第2回小松島市一般廃棄物処理基本計画策定会議 議事要旨

日時：令和6年7月8日(月)15:30～

場所：小松島市役所 4階 大会議室

出席委員

松村委員、小川委員、浅田委員、澤口委員、田中委員、建島委員、佐藤委員、小林委員

会議に付した案件

- 議題（1）ごみ排出量及び生活排水処理人口の予測について
- （2）関連計画の目標値と本市の推計値の比較について
- （3）減量化の施策について
- （4）市民及び事業所アンケート案について

議事要旨

- 議題（1）ごみ排出量及び生活排水処理人口の予測について  
ごみ排出量及び生活排水処理人口の予測について報告。

委員意見：生活排水の処理人口について、建物の更新が進んでいかないと、浄化槽も更新していかないのではないかと思っている。そこを踏まえて、人口の減少と旧市街地の建物更新との関係は、今回の推計ではどのように取り扱われているのか。分かる範囲で教えてもらいたい。

委員意見：市として補助金を出して、単独槽の更新で、既存建物を替えることまでは行われていないという理解でよろしいか。

事務局：既存の単独槽、汲み取り槽から合併処理槽への転換については、補助金を交付しているが、旧市街地で建物が混みあった場所では、新築でないと合併浄化槽に入れ替えられないという状況がある。そういったことまで加味した普及率の向上になっているかどうか分からないが、汚水処理構想の中では、令和17年度までに汚水処理人口の普及率95%を目指すとしているところである。また、令和4年度に公共下水道の見直しを行い、市内全域を合併処理浄化槽で整備していくという方針を示したところである。本市の方も、普及啓発に力を入れていきたいと考えている。

委員意見：P3 将来人口の推計が、市役所の他の色々な計画の人口と同じになっているのか。それともう1点、生活排水処理について、浄化槽の補助金が出るという話で、環境省の方に5年間の計画を立てているが、その目標

数値と合っているのか。整理した方が良い。

事務局 : 確認する。

## 議題（２）関連計画の目標値と本市の推計値の比較について

関連計画の目標値と本市の推計値の比較について報告。

委員意見 : P4の（３）前回計画との比較について、前回計画の1人1日当たりのごみ排出量は、737g/人・日とあるが、一方で、県の計画では、605g/人・日ということで、前回計画の目標値が達成されたとしても、県の目標数値は達成されない。一般廃棄物排出量を28%削減したにもかかわらず、1人1日当たりのごみ排出量が増えている。前回設定した数値の根拠と、今回削減したにもかかわらず、増えているとした分析について教えて欲しい。

委員意見 : 生活系ごみというのは、資料1や別紙にあるが、燃やせるごみ、燃やせないごみ（びん・ガラス類、金属・空き缶類、廃プラスチック類、ペットボトル）、資源ごみ、粗大ごみの合計となる。これは、文化的な問題で、衛生観念が高まり、ごみを少なくしようとしても、他に燃やせるごみ以外のごみが、生活環境では多くなっているというのが文化的な推移である。国もそれは分かっている、資源化率を上げるということに、考え方を変えていっている。よって、目標値でやるべきことは、資源化率の向上を国の基準に近づけていくことの方が大事である。ただ、資源化率は、なかなか進まないことが現状であるが、今回の議題で、新しい中間処理施設が議論の俎上にのって、そういうものを見ながら市民の協力と技術的な解決の両方を用いながら、大事な資源を無駄に使わないようにしようと考えていくことが大事なことであると思う。色々なことを組み合わせて、無駄にしないようにする。我々の生活の文化の程度をそんなに毀損しないで、進めていくことが理想的な計画だと思う。

委員意見 : 紙箱と新聞、雑誌というのは、分けて集めているが、これは両方とも資源ごみとなるのか。

事務局 : 新聞と雑誌、段ボールは、すべて資源ごみとしている。

委員意見 : ごみ問題について色々論じる時に、いくつか関わってくる制度と法律があるが、その中に容器包装リサイクル法という法律がある。ペットボトル、プラスチック容器、缶、びん容器等があるが、これらは製造時にお金が掛かる。そのため、分別が行き届かないと、製造時のお金が無駄になる仕組みである。この辺も市民の皆様にご存知で、適切な分別にご協力いただくということを、市の方で教育普及をお願いできたら

と思う。文化的にごみの多い生活になってしまっているが、分別をしてリサイクル率を上げて、減らせるものが他にないだろうかというところを一緒に考えていただければと思う。

### 議題（３）減量化の施策について

減量化の施策について報告。

委員意見：エコバッグは、どのくらい効果があるのか。レジ袋の有料化から２年程経つが、これは検証が必要かと思うが、小松島市は排出するごみの袋は有料である。徳島市は、指定ごみ袋はない。これは、全国同じ制度を使ったが、指定ごみ袋のところと、そうでないところで、抑制効果が違っているのではないかと思う。レジ袋は、ごみを捨てる袋に必ず再利用している。その場合には、５円で買う回数が一定程度あって、あまり減っていない。有料ごみ袋のところは、それに回さないから一気に普及しているのではないかと思う。統計上のデータを探しても見つからなかった。小松島市は、エコバッグの取り組みが効果のある地域と位置づけることができるかと思う。何の目的でレジ袋を削減したのかというと、国の目的はプラスチックごみ量の抑制ということだが、この施策目的が効いているのかということについて検証したいと思う。P2にある「④環境に配慮した行動の推進」で「エコバッグを持参し、レジでは不必要な物（レジ袋、使い捨ての割り箸・スプーン等）をもらわないように努めます。」という市民の役割が、どのくらい効いているのかは検証が難しいが、やれたらいいなと思う。施策を挙げてもらって、この最終的な見直しについては、次回、３回目の時に確認を取りたいと思う。

### 議題（４）市民及び事業所アンケート案について

市民及び事業所アンケート案について報告。

委員意見：１，９００は世帯単位か。

事務局：市内にお住まいの１８歳以上の方１，９００人にアンケートを取る予定である。

委員意見：誤差は無いと思うから大丈夫だと思う。市民の５％にアンケートを協力してもらい、事業系ごみについても対策を考えなければいけないので、事業系ごみのアンケートも市内事業者にご協力をいただくことになる。１００事業者ということです。

- 委員意見 : 問14のごみの収集回数と排出回数の項目について、ごみの排出回数が「毎回」、「ほぼ毎回」、「半分程度」、「わからない」の区分となっている。自分の家のごみの出し方として、燃やせるごみ、廃プラスチック類については、毎回出しているが、びん・ガラス類、金属・空き缶類については、2か月に1回か、多くて2回ぐらいしか出していない。そういった場合に、当てはまる場所が無いと思うので、もう少し細かく項目を分けた方が良いと思う。
- 事務局 : ここに関しては、今のご意見等を加味させていただいて、答え方の部分について検討したいと考えている。
- 委員意見 : 週2回の燃やせるごみと、曜日の配列によって変わるが、月2回か3回の分と、毎月1回の分とで聞き方を分けても、そんなに変化は無いと思うので、聞き方を分けたら良いと思う。前回の第1回の会議で、資源の持ち去りどころか、ソーラーパネルの銅線の盗難に遭ったというような報告があり、色々世の中の事情は変わっていくが、特に金属・空き缶類は為替相場によって大きく変動する。ごみでも売れる状態になっているときには、組織的な活動が活発になる。法律の世界ではよく説明するが、ごみの所有権は誰にあるのかというと、これは収集を予定していることから、市の所有になるので、これを盗まれるということは、市の物を盗んでいることと同じである。市役所の収集の方も見守りをして、色々な工夫をしていただいている。
- 委員意見 : アンケートを実施した結果、実際、減量化の施策が有効なものとなりそうかどうかについて、次回お集まりいただいて意見を伺いたい。その結果、全体的な廃棄物の処理計画を策定していきたいと思う。